

体育授業における自尊感情形成に関する研究  
—小学校高学年児童の自尊感情と体育授業における価値観  
及び運動有能感との関連から—

教科・領域教育専攻

生活・健康系（保健体育）コース

指導教官 賀川昌明

横田直樹

## I 研究の目的

賀川（2001）は、大学生を対象とし、体育授業が学習者の自尊感情の向上に寄与する要因を調べた。その結果、単に運動能力に関わる自己評価だけではなく、活動者の価値観に関わる自己評価項目との関連が強いことを示唆した。

そこで、調査研究では、小学校高学年児童（以下、児童とする）の自尊感情形成に関わる要因として、体育授業における価値観、運動有能感を想定し、それらが自尊感情の高低並びに安定・不安定とどのような関係にあるのかを明らかにすることとした。また、事例研究では調査研究の結果を基にし、体育授業プログラムを考案し、その有効性を検討することとした。

## II 調査研究

### 方 法

1. 調査内容：a. 自尊感情尺度，b. 反動的自尊感情尺度（自尊感情と同様の尺度を使用し、担任教師からどのように評価されていると思うかを児童が想像して回答する），c. 体育学習における価値観尺度（以下、価値観尺度），d. 体育学習における達成感尺度（価値観尺度と同様の尺度を使用。以下、達成感尺度），e. 運動有能感尺度
2. 調査対象：徳島県他4県の小学校高学年児童2812名。
3. 調査方法：各学校とも学級担任による一斉調

査。

4. データ処理：自尊感情尺度，反動的自尊感情尺度については，その合計得点を，運動有能感尺度については，それらの下位尺度ごとの合計得点並びに運動有能感全体得点を算出した。また，価値観尺度については，主因子解・バリマックス回転による因子分析を行い，回転後の因子負荷量の絶対値0.45以上を基準とし，上位4項目により下位尺度を構成した。その結果，価値観尺度は4下位尺度で構成され，その合計得点をそれぞれの尺度得点とした。達成感尺度は，価値観尺度と同様の下位尺度構造とした。また，児童が体育授業で価値を置いていることをどれくらい達成できているのかを把握するために（（達成感下位尺度得点－価値観下位尺度得点）/価値観下位尺度得点×100）という達成率を求めた。そして，この達成率を体育学習における効力感得点（以下，効力感得点とする）とした。

次に，それらと自尊感情尺度得点との積率相関係数を求めた。さらに，自尊感情尺度得点を従属変数とし，価値観4下位尺度，達成感4下位尺度，運動有能感3下位尺度の得点及び全体得点を独立変数とし重回帰分析を行った。最後に，自尊感情，反動的自尊感情ともに平均点以上を高自尊感情児童，高反動的自尊感情児童，平均点より低い児童を低自尊感情児童，低反動的自尊感情児童とし，その組み合わせにより4群を設定した。これらの自尊感情水準と安定性

を組み合わせた4群が価値観得点, 達成感得点, 運動有能感得点, 効力感得点に及ぼす影響を調べるために一要因分散分析を行った。なお, 安定性とは, 高自尊感情と高反動的自尊感情のように自尊感情尺度と反動的自尊感情尺度に対する児童の自己評価が一致している場合を「安定」とした。また, 高自尊感情と低反動的自尊感情のように児童の自己評価にズレが生じている場合を「不安定」とした。

### 結 果

1. 各項目間の相関係数: 自尊感情得点と各調査項目得点との相関係数から, 有意な相関関係を示す項目としては, 「反動的自尊感情」得点が最も高く, 次いで「運動有能感」得点, 「身体的有能さの認知」得点, 「統制感」得点などであった。
2. 自尊感情を従属変数とした重回帰分析: ステップワイズ法による重回帰分析により自尊感情得点を推定する尺度得点として, 6下位尺度が採択された。この6下位尺度得点と自尊感情得点との重相関係数は0.59であり, その説明力は35%とあまり高くない値であった。標準偏回帰係数により, 児童の自尊感情に特に強い規定力をもっているとは推定されるのが, 「運動有能感」であり, 次いで「規律遵守(達成感)」であった。
3. 自尊感情水準と安定性の組み合わせが及ぼす効果: 価値観得点, 達成感得点, 運動有能感得点, 効力感得点ともに傾向に多少の違いはあるものの安定高自尊感情>不安定高自尊感情>不安定低自尊感情>安定低自尊感情の順に得点が高く, 安定高自尊感情と不安定低自尊感情, 安定低自尊感情の間には一貫して0.1%水準で有意差が認められている。

### Ⅲ 事例研究

#### 方 法

調査研究で明らかとなったデータを基にして,

体育授業プログラムを立案し, 徳島市のS小学校(5年2組, 5年3組のクラス担任及び児童)に協力してもらい, 授業実践を行った。

1. 調査内容: a. 自尊感情, b. 反動的自尊感情, c. 体育学習における価値観, d. 体育授業における自尊感情, e. 運動有能感, f. 形式的授業評価, g. 教師の声かけに対する児童の受けとめ方についての調査, h. 児童に対するかかわり方についての調査
2. 教師の言語行動分析, ターゲット・パーソン(以下, TP)の学習行動の録画: 教師の教授行動, TPの学習行動をビデオカメラで追跡しながら撮影した。教授行動に関しては, 授業分析用カテゴリーにより, 教師の言語行動を分析した。TPに関しては, 3視点から逐次記述した。

### 結 果

調査項目, 教師の言語行動分析, TPの学習行動記録などのデータを踏まえて, 各クラスともに, 全体傾向, ピックアップ・パーソン, TPの分析を行った。その結果, 自尊感情の変容に「運動有能感全体得点」が影響を及ぼしており, 調査研究での仮説を一応立証する結果となった。さらに, 児童の価値観のうち, 本授業実践では, 「思考・探究」得点が自尊感情の変容に影響を及ぼしていた。また, 反動的自尊感情の変容には, 教師の児童に対する受容的態度が影響を及ぼしていたと考えられる。

### Ⅳ 結 論

体育授業を通して児童の自尊感情を向上させるためには, 体育授業の中で児童一人ひとりの多様な価値を認め, 児童一人ひとりが兼ね備えている固有のよさや可能性を教師が見いだそうとする姿勢, そしてその価値領域に対する積極的な評価を行うような態度や受容的態度を教師が持とうとすることが重要であると考えられる。